高校生の主体的な進路選択をサポートする先生のための

Career Guidance

2012年10月10日発行 第44巻第4号通巻394号

リクルート | キャリアガイダンス 2012.10 No.43

キャリアガイダンス.net >> データ・ワークシート・電子ブックはこちらから http://souken.shingakunet.com/career_g/

ヘルスケアの未来

医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、医学研究者etc.

心臓外科医
須磨久善

動き始めた高校の実践から探る
グローバル時代のキャリア教育

教科でキャリア教育
授業レポート「数学」
三重・私立鈴鹿高校

キャリア教育先進事例
熊本・県立熊本高校

進路指導実践事例
大学・大学生との連携

リサイクル
この本はリサイクルできます

RECRUIT

chapter.2

医療職に求められる資質

ヘルスケア業界で働く人たち、つまり医療職にはどのような資質や適性が求められるのかを専門家の方々に語ってもらいました。医療とは何か、医療職のあるべき姿とは何か、といったことを真剣に考えていくと、これからの医療に求められる人材像も見えてきます。

取材・文／荒尾貴正（本誌編集デスク）　撮影／中岡邦夫

多くの病気は治せない。だから医療職の「質」が問題

神奈川・大船という全国有数のクリニック密集地帯でトップクラスの診療実績を挙げている「信愛クリニック」という医院がある。開かれた医療の実践を目指す井出広幸院長（19p参照）は、医院のウェブサイトに『現代医学の忘れ物』というエッセイを発表している。そこで「ほとんどの病気は医者には治せない」と書いている。「『治る』とはその病気と完全に縁が切れることです。私が専門とする消化器の領域に限っても、治らない病気のほうが多い。進行してしまった癌だけではありません。肝硬変も治せないし、便秘すら完治はしない―」

ならば医者はいらないのではないか？

答えはNoだ。治せない病気ほど医者が必要なのだという。

「治せる病気は治す方法が確立しているので、それをやればいい。胃潰瘍などもH2ブロッカーで治ります。治らない病気の場合はどうか？　例えば癌が進行して最期が近づいた患者さんの場合、医学としてはもう『できることはない』。しかしモルヒネなどを駆使して苦痛を消し、便が出なければ便を出し、吐き気があれば吐き気を止め、眠れなければ眠れるようにする。つまり、『やるべきこと』は治らないときほど多くある。そんなときほど、プロとしての経験と情熱がものをいうのです。たとえ治せなくとも、『そこにいること』。それが『手当て』を職業とする私たち医療職の大事な仕事なのです」

そして「医療＝医学＋人」であると井出院長は指摘する。すなわち医学は、医療における「道具」のひとつであり、医療トータルの成果には、人としての医療従事者の「質」が大きく影響を与えるということを理解しておきたい。

12時間やって飽きなければそれは「天職」

井出院長の典型的な1日は、朝7時に出勤、7時半から胃カメラなどの検査を始め、9時から夜9時半まで診察という、超ハードスケジュール。

「決して人様には勧められないような長時間労働ですが、私は全然苦ではなく、毎日毎日、本当に楽しく仕事をさせてもらっています。『12時間やっても少しも苦ではない仕事は、その人にとって天職である』と村上龍が書きましたが、私にとって、まさしくこの仕事はそれに当てはまります。こんな私が高校生にアドバイスをするとしたら、能力や資質で仕事を選ぶ方法もあると思いますが、やってみて楽しいかどうかや、いかに心惹かれるかで仕事を選ぶことも、決して間違いではないと言いたいですね」

「チーム医療」のなかで対等に意見を述べること

「チーム医療」という言葉を聞く機会が増えている。この言葉から「仲の良い医療チーム」や「チームワークの良い病院」といったイメージを浮かべる人がいるかもしれないが、それは少し違う。チーム医療とは、患者にとって最大の成果を挙げるために、各分野の専門家が互いの力を出し合い、チームとして最高のパフォーマンスを追求していくことである。かつては「医師中心」の医療が行われていたといわれる。それを本来あるべき「患者中心」の医療に変えていくことでもある。

チーム医療を行うには、「全員の立場が対等」であることが望ましい。医師の教育課程のみが6年制であれば、やはり医師中心になりかねない。薬剤師が6年制となり、看護師など他の医療職も3年制から4年制中心になりつつあり、チーム医療の前提が整いつつある。いずれにせよ医療現場でチームに入ったとき、各々に教育年限の差があったとしても、そのメンバーはプロとして自分の考えをはっきり述べなければならない。それが仕事であり、それが「治療の成果」や「安全」に直結する。さらに、相手の立場を理解し、意見に耳を傾けること。それぞれの力はそのようにして引き出される。

図6　診療科名の例

- 内科
- 呼吸器内科
- 循環器内科
- 消化器内科（胃腸内科）
- 腎臓内科
- 神経内科
- 糖尿病内科（代謝内科）
- 血液内科
- 皮膚科
- アレルギー科
- リウマチ科
- 感染症内科
- 小児科
- 精神科
- 心療内科
- 外科
- 呼吸器外科
- 心臓血管外科
- 乳腺外科
- 気管食道外科
- 消化器外科（胃腸外科）
- 泌尿器科
- 肛門外科
- 脳神経外科
- 整形外科
- 形成外科
- 美容外科
- 眼科
- 耳鼻いんこう科
- 小児外科
- 産婦人科
- 産科
- 婦人科
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 麻酔科
- 病理診断科
- 臨床検査科
- 救急科

外科は「手先が器用」内科は「勉強が好き」

日本で唯一ロボット心臓手術を行っている渡邊教授は（10p参照）、通常の手術を含めて手術成功率99・5％を誇り、世界一の成功率と言われる。そんな外科医から見ると、外科医には「手先の器用さ」が求められるという。努力で磨かれる部分もあるが、一般的には、もともと不器用な人は外科には向いていないと考えたほうがいい。

「外科医の先生たちに聞いてみると、子どものころに工作や細かい手作業が好きだったという人がたくさんいます。私もまさしくそうでした。医療行為は患者さんにとってリスクがありますが、医者にとってもあります。結果が悪ければ訴訟を起こされたり、逮捕されることもある。不器用な人が外科医になると、あまり幸福ではないでしょうね」

一方、内科医は「勉強が好き」な人が向いているという。「内科医は患者さんを診察しますが、診察したあとに、『これはどんな病気だろうか』と丹念に探る作業を行います。バラバラにも見えるいくつかの症状や検査結果を、点から点に線を引くようにして結び付け、病気を特定していきます。国内外の論文を読んで病気を探っていったりする、コツコツとした知的作業が求められるのが内科医です」

診療科にはさまざまな名称があるが（図6）、これらは大きく分けると「内科系」と「外科系」の2つに大別できる。「～内科」「～外科」という名称のもの以外では、例えば眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科などは「外科系」、皮膚科、アレルギー科、精神科などは「内科系」と考えてよい。

金沢大学医学部教授
心臓血管外科医
渡邊 剛氏

知識や技術よりも「優しさ」が大切

医療現場は、厳しく叱って若い医療職を育てる世界だといわれる。うまくできなければ「バカヤロー！」と怒鳴られ、「辞めてしまえ！」という言葉も飛び交う。なぜなら、「ごめんなさい」では済まない仕事だからだ。医療の現場では新人であろうと、些細な間違いであろうと、間違いは許されない。

「私も『辞めてしまえ』と言って厳しく指導することがあります。まれにですが、本当に辞めてもらうこともあります。それは知識でも技術でもない。自分より弱い立場の患者さんを見たときに、『かわいそう』とか『何とかしてあげたい』と心から思えるかどうか。なかにはそう思えないような人がいますが、そんな人は医者になってはいけないと思います。手先の器用さや、勉強が好きかどうかといったことよりもまずはそこが重要です」（渡邊教授）